

甘肅省に
於ける第
一程

間は處々短距離の凹道を通じ、乾州以北は山背に屬するか故に凹度小に、且つ兩側の攀登容易なり。唯々急阪地に到りては、往々絶壁數尋の凹道と變じ、山背は概ね狭長左右に千仞の溪谷を控へて、一種の長隘路を成せり。河川には霸水、滲水、涇河ありて、皆涇河の支流を成し、共に濁水、舟楫の便なく、唯々渭河は、西安、潼關の間に於て、石炭を搭載する小舟の航行を許せり。

第四章 長武、安西(甘肅省)間の行程

第一節 長武蘭州間

十一月二十二日午前十時三十五分、長武を發せり。即ち陝西省を去る最終の行程とす。大陸の一角天と渺茫、之を既經の前省に顧み來れば、前途又有趣味の風物に接すべしとも思はれず。山あり唯々半空を摩して雲に入り、河あり唯々濁流を漲らして天に注ぐ。初冬草木を裸し去りて、空林風に嘯くの時なるも、今まで自然の森林に接せざりしに鑑みれば、更に是等の光景ありとも覺えず。否予は觀光探勝の客に非ざれど、此記を飾るに物なきを遺恨とす。